

「Do you know 能？」第十二弾

～ガイドなら一度は観ておきたい能楽～

2025年2月19日（水）実施 JGA 第一支部研修 終了レポート

初体験の印象は、その後の対象への評価や好みを左右します。その点、今回の研修が能楽初体験の参加者はとてもラッキーでした。

今回の講師はJGAの研修で二度目となる、シテ方喜多流能楽師の大島輝久師でしたが、能楽の成り立ち、能と狂言の違いや見どころなどを非常にわかりやすく、明快に解説して下さいました。一般の芝居



と能楽の違い、面の意味や効果、さらに、能楽師として何を最も大切に演じているか、後の舞台鑑賞で参加者が意識すべき点も教えて下さいました。能楽研修リピーターにとっても新鮮な驚き、新たな視点を頂ける、誠に有意義な内容でした。

JGA 恒例となった能楽研修は今回で12回目、今回も独立行政法人日本芸術文化振興会 国立能楽堂様に多大なご協力を頂き、レクチャーと能舞台体験、さらに能楽舞台鑑賞と、一日かけて能楽を堪能するものです。



神奈川県、埼玉県、東京都、北海道から29名の参加がありました（正会員21名、非会員6名、委員2名）。

講義の後には講師の先導で研修生用の能楽舞台に向かいます。鏡の間で幕をあける声をあげ、教えて頂いた構えと運びで舞台に進み、独特な型を練習しました。

昼食と交流（希望者のみ）を楽しんだ後は、いよいよお待ちかねの舞台鑑賞。今回は、狂言「千鳥」茂山七五三（大蔵流・人間国宝）、能「隅田川」塩津哲生（喜多流）、という実に贅沢な舞台上、故に贅沢に正面席を取りました。講義で教わったことを意識して鑑賞すると、確かにちょっとした動きから登場人物の想いをより深く感じ取れます。最後まで舞台に集中出来、終演後は参加者から「とても面白かった」「感激した」と感想を頂きました。

